

丸の内朝飯会 第2回オープン講座

特別講演： **アジアのもう一つの大国 —インドとどう取り組むか—**

講師： **谷野 作太郎 氏** (元中国・インド大使)

日時：2014年4月17日(木) 7:30~8:30 講演

(6:50~7:30 朝食 8:30~9:00 質疑応答)

会場：東京グリーンパレスホテル B1階 宴会場 <http://www.tokyogp.com/>

会費：2000円(丸朝会員)、1000円(会員以外)：朝食代を含む

定員：申し込みの先着50名まで

第2回オープン講座は、昨年に引き続き谷野作太郎元中国・インド大使にご来駕を頂き、インドについてご講演をお願いすることになりました。

アジアの巨竜が中国なら巨象はインドです。1960年代から70年代にかけて中国が混乱の中にあったころ、インドは既に非同盟諸国の雄として世界の政治をリードしていました。その後、本格的な自由化とインフラ整備が遅れたために長く経済の停滞に苦しんでいましたが、近年再びその頭角を現わしてきました。過去5年は平均8.5%以上の経済成長を成し遂げています。2030年には中国を抜いて世界最大の人口大国になり、さらに50年にはアメリカのGDPを追い抜くとも言われています。しかし、インドが巨象であるだけに、群盲の我々にはなかなかその実体が見えません。国民が数字に強く議論好きで、ITのソフト開発分野では世界をリードする国であることは誰もが知るところです。また大変な親日国であり、昨年末に天皇皇后両陛下が訪印されたことは皆様のご記憶に新しいと思います。今年1月には安倍首相が訪印、共和国記念日の式典に出席という両国間の異例の親密ぶりが注目されました。

ところが一方で、国民の4人に一人が貧困(1日1ドル以下で生活)にあえいでいる国でもあるのです。2008年にアカデミー賞をとった「スラム ドッグ ミリオネア」は、そんなインドの底辺に生きる人々を活写した貴重な映画でした。この貧困問題と密接に結びついているのが、宿痾とも言われているカースト制度です。今もインド社会はこのカースト制度の上に浮かんでいると言っても過言ではありません。農村に残る女性差別、社会に蔓延する汚職、隣国パキスタンとの紛争などもまたインドが直面している課題です。こうした複雑で多様な顔を持つ巨象の実像について、今回、谷野大使からじっくりとお話をお伺いしたいと思います。どうか皆様、奮ってご参加下さい。

谷野作太郎氏 プロフィール

1936(昭11)年生まれ 1960(昭35)年3月東京大学法学部卒業 同年4月外務省入省 1978(昭53)年12月アジア局中国課長 1984(昭59)年5月大韓民国日本大使館公使 1989(平成元)年6月アジア局長 1995(平7)年9月インド大使 1998(平10)年4月中国大使 2001(平13)年4月外務省退官 その後早稲田大学客員教授、東芝取締役等を経て、現在日中友好会館顧問 2013(平25)年末の両陛下訪印に随行

問い合わせ先：美谷島克実 (biyajima@tcn-catv.ne.jp)